

Information 11

そろそろ乾燥の時季に入り病気を引き起こす原因

“ウイルスや菌”などが増えてきます。

今回はそんな病気を予防するための色々な消毒方法について紹介します！

【どんな消毒方法があるの？】※ファームプレス 小動物衛生学参考

消毒には色々な方法があり、大きく分けて2つ紹介します！

① 煮沸消毒

主に注射針・注射器・メス・ハサミやガラスなどを病院では専用の機械を使い、**温度は100℃にし、10～30分間煮沸**します。
大部分の病原菌が殺菌できますが、近年あまり使用されていません。

② 化学的方法による消毒

一般的にイメージされる消毒剤を使用した方法。
創傷部の消毒、手指や器具の消毒に使用できます。
ただ、**全てが使いたい場所の消毒に使えるとは限らない**ので
使用前は、お医者さんや薬局の方に“**何に使用したいか**”を伝え
相談しましょう。

例えば・・・

- 手指や鉄製以外（サビになりそうな場所以外）の消毒
→ エタノールやイソプロピルアルコール
- 傷口などの消毒
→ イソジン
- 手術などの器具類の消毒
→ ヒビテングルコネート・・・など

【手指や器具に用いられる消毒剤】

薬剤名	有効な微生物
アルコール類 (エタノール、70%イソプロピルアルコール)	最近、結核菌 ウイルスの一部は無効
ハロゲン化合物 (イソジン、ポピドンヨード、ピューラックス)	細菌、芽胞 ウイルスほとんど全て
ピグアニド系 (ヒビテングルコネート、マスキン、ヘキサック)	一般細菌
アルデヒド類 (ホルマリン、ステリハイド)	ほとんど全て
フェノール類 (消毒用フェノール、クレゾール石鹼液)	細菌、結核菌

△使用するにあたりいくつか注意点があります△

- ※希釈などの方法が必要な場合や**生体には使用できないもの**もあります。
使用する場合は説明書などをよく確認し、正しく使用しましょう。
また、消毒剤によって**保存方法**が異なるのでしっかり確認しましょう。
- ※消毒用アルコールは可燃性蒸気が発生し滞留しやすいです。
火気により引火する恐れがあるため取扱には注意しましょう。
- ※生体に害を為す消毒薬もある為**直接匂いを嗅ぐ行為などは避けましょう。**

皮膚や傷口には使用できないもの、着色してしまう為器具類には不向きなもの
など用途によっても使用できる消毒は様々あります。

消毒剤をお家で使用する際は“**何を予防したいか・どんな場面で使用したいか**”
を考え使用方法が不安な場合は
病院のスタッフや薬局の方に相談してみましょう！

